



① 12 周年記念サロン（東京） ② 昼回りでの食料配布の様子

③ 今期の発行物 ④ 青空サロン（大阪）

⑤ ソケリッサ（映画 ダンスिंगホームレス） ⑥ 講談部 第 11 回大阪ホームレスクリスマスパーティーでの一コマ（Photo：草田康博）

目 次

03	はじめに ――共同代表からのごあいさつ
04	第 13 期の活動概要
06	つながって生きる ――生活自立応援プログラム
06	・ コロナ禍での活動 ――緊急市民ネットワークによる活動を展開
08	・ 何があっても大丈夫 ――当事者への情報や交流機会などの提供
10	・ 暮らしを取りもどす ――健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動
10	・ 仕事がしたい ――仕事・就業応援プログラム
11	・ 生きていてよかった ――スポーツ・文化活動プログラム
13	生きやすい社会をととのえる
	――ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案
13	・ 暮らしの基盤をつくる ――住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
13	・ 新しい仕事をつくる ――若者をホームレスにしないために
14	・ 依存症からの脱却 ――ギャンブル障害の調査・提案事業
15	市民が社会をつくる ――ボランティア活動と市民参加
15	・ 参加のチャンスをつくる ――ボランティア参加プログラム
15	・ 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 ――寄付参加プログラム
16	・ 広報・メディア掲載他
18	これまでの発行物一覧
19	ありがとうございました ――市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
20	決算報告
22	社会を変えるのはあなたの寄付です ――会員・寄付の制度について
23	誰にでも居場所と出番のある “ 包摂 ” 社会をつくる
	――ビッグイシュー基金とは

認定 NPO 法人ビッグイシュー基金の第 13 期は、共同代表制への移行で始まりましたが、今年春以降は日本社会を襲ったコロナ禍への対応に追われることになりました。

感染症リスクを低減するために、事務所体制の変更や従来からの活動の一部休止・縮小をせざるをえない状況に追い込まれながら、コロナ禍の影響で貧困が拡大しているという社会状況を踏まえ、私たちは新たな活動にチャレンジしていきました。それは、「私たちにできることは何か」、「今、やるべきことは何か」と自問しながら、先が見えないまま走り続けた日々でした。

幸い、これまで以上に多くの方々のご支援や

応援を得ることができ、新事業も軌道に乗りつつあります。また大阪と東京を中心に、各地で生活困窮者支援に取り組んでいる団体との連携も大きく広げることができました。

まだまだ予断を許さない状況が続きますが、引き続き、ビッグイシュー基金の活動へのご支援、ご注目をよろしくお願いいたします。

(稲葉 剛)



2020 年、大変な年になってしまいましたね。感染症の世界的流行を指す＜パンデミック＞という初めて聞く言葉が、それぞれ世界を覆い尽くした 1 年になりました。コロナ禍の大きな影響を受けて、働き方や暮らし方だけでなく、生き方さえも見直されるように感じた方も多かったと思います。私もそのひとり、でもそのコロナ下の暮らしにさえ、慣れてしまう気もしました。晴れない気持ちを抱えた鬱々とした状態を受け入れてしまうような、先が見えない不安に少し投げやりな気持ちになるような。

でも改めて、きゅっと気を引き締めて、うなだれそうになる顔を上げて前を向きたいと思います。前に進みたい、変わっていききたいと思います。

これまでの予想もしなかった大きな災害にも、重い代償を払いながら私たち、

＜共に生きる＞ことの大切さを学んできたんですもの。

大丈夫、共に乗り越えていけるはず。慎重さを持ちつつも、私たちの＜生きる力＞を楽観的に信じて進んでいきたいと思っています。

どうぞこれからも、ビッグイシューを応援してください。

(枝元 なほみ)



雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を側面から支える、認定 NPO 法人ビッグイシュー基金は、若くて有能なスタッフと、たくさんの協力者の方たちの志と情熱で、前に進んでいることを、ますます強く感じています。

ホームレス問題は、社会のいちばん弱い部分であり、それゆえに、社会の変化をいちばん敏感に感じる場所です。つまりわたしたちは、時代変化の最先端に身を置いていることとなります。深いところでルールが変わり始めている、ポストコロナの時代感覚を一言で切り取るような、目の覚めるような言葉をいっしょに考えてみま

しょう。

ビッグイシュー基金が、日本社会が不得意である政策提案までをも行う、「見えないシンクタンク」としても機能するよう、ささやかなお手伝いができればと思っています。

(米本 昌平)



第 13 期の活動概要

2007 年の設立以来、ビッグイシュー基金ではホームレス問題の当事者自身が問題解決の担い手になれる「自助型の応援」という考え方を基本に活動をしてきました。そして3つの事業「ホームレスの人々の生活自立応援」「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」「ボランティア活動と市民の参加」を柱に、各種のプログラムを展開してきました。

活動 13 年目となる 2020 年 1 月、全国の路上生活者の数は 3992 人（2020 年厚労省調査）。2007 年当時の 18564 人から約 8 割減少しています。全国の路上生活者の数が、都内の「ネットカフェ難民」4000 人（2018 年東京都調査）を下回ったことは、「ホームレス問題」が見えにくい形で広がっていることを示しています。

変化する貧困・社会の問題に柔軟に対応するため、基金では 13 期に役員体制を共同代表制へと変更し、活動の展開を議論してきました。その矢先に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、13 期後半は、感染予防をしながら「今できること」を模索し、刻々と変化する社会・経済の状況に対応した活動を展開しました。事務局に寄せられる支援物資や寄付参加に元気をもらいながら、これまでの活動ノウハウをもとに、団体の枠を超えた活動にも挑戦しました。そして、スタッフ・当事者に一人の感染者もなく活動することができました。第 13 期活動の概要は以下の通りです。

（ホームレスの人々の生活自立応援事業——情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など）

情報提供では 2020 年 6 月に『路上脱出・生活 SOS ガイド』（東京 23 区編）の改訂第 3 版を発行しました。コロナ禍に対応するため、NPO や行政の支援内容を更新しました。また、基金も参加する、今夜泊まる場所がない人にホテルなどでの宿泊費を提供する支援ネットワーク「東京アンブレラ基金」の情報も追加。8 月末までに 3056 部を配布しました。定例の昼回り、夜回りでの配布も継続し、寄付品（食料や

マスク）とともに手渡しました。

生活自立応援では健康、住宅、法律、依存症などについて相談を受け、民間支援団体、行政機関、医療・法律の専門家と連携してサポートしました。年末年始には NPO 法人 P O S S E と、一般社団法人つくろい東京ファンド主催の「年越し大人食堂」に相談対応と広報で協力。料理研究家で基金の共同代表でもある、枝元なほみが料理を担当しました。

月例サロンはイベント企画や路上の仕事、生活を話し合う場として継続しました。9 月の周年パーティや 12 月のクリスマスパーティなど、当事者と市民の交流イベントも開催し、3 月からは感染予防のため形を変えて、大阪で「青空サロン」を開催しました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー 日本版』の販売者を（有）ビッグイシュー日本と協力して応援しました。2 月には日本・韓国・オーストラリアのストリートペーパーを発行する団体が集う「アジア・パシフィック地域ストリートペーパー会議」の開催に協力しました。

スポーツ・文化活動は、感染症対策のため、一部活動の休止・縮小を余儀なくされましたが、サッカー、英会話、歩こう会、料理、パソコン、家庭菜園部など、当事者によるクラブ活動を応援しました。大阪の「講談部」はプロ講師の指導で、月例講談会とクリスマスパーティで創作講談の披露に挑戦。サッカーでは月例の練習を重ね、5 月に各国のホームレス・ワールドカップ代表選手が参加するオンライン大会「HOMELESS WORLD (KEEPY UPPY) CUP 2020」にも参加しました。また、基金から独立した「ダイバーシティサッカー協会」の法人化を応援しました。そして、クラブ活動から発展したダンスチーム「新人 H ソケリッサ!」の映画『ダンシングホームレス』が 3 月から全国で順次公開され、基金は広報で応援しました。

（ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案——ギャンブル障害問題 / 住宅問題 / シビックエコノミー）

ギャンブル障害問題では、共同代表の米本昌平を中心に「ビッグイシュー基金ギャンブル障害研究グループ」の活動を継続。12期に京都大学大学院医学研究科と共同で実施したシェルター利用者への聞き取り調査の内容を「2019年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会」と「第21回国際嗜癮医学会年次学術総会」の2つの学会で発表し、12月に報告書『ホームレス状態とギャンブル障害—121人のヒアリングから』としてまとめました。

住宅事業では、借り上げ住宅の「ステップハウス」事業を継続。3月からは「つくろい東京ファンド」と連携し、新たに緊急用シェルター2室（ふたまるハウス）を設けました。東京・大阪の全8室で、延べ146件の利用があり、5人が次の住まいに移りました。

（ボランティア活動と市民の参加——ボランティア、寄付、そして広報活動）

ボランティア希望者には毎月「説明会」を開き、オンライン形式でも開催しました。累計登録者は東京681人、大阪497人、札幌から鹿児島まで各地で69人、合計1247人でした。

市民応援会員は429人、企業などの会員は2件。寄付金控除のある「出会い寄付」など5つの寄付メニューへの参加者は1438人、任意寄付参加者は1758人、その他寄付者（チャリボン等）651人、遺贈・大口寄付2人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者は延べ4280人、会費・寄付額は6633万円でした。

寄付参加促進のため、4月には国の特別定額給付金を活用しての寄付呼びかけなども行いました。広報では、基金だよりや基金通信「希望前線」を各24回発行。このほか「ビッグイシューオンライン」、「Google広告」なども活用しました。またマスメディアで、ギャンブル障害問題の取り組みやクリスマスパーティ、講談部の活

動などが取り上げられました。

（コロナ禍での新たな活動）

3月から「Amazonほしい物リスト」も活用して、緊急支援物資募集を呼びかけました。事務局には約5000食の食料、7000枚のマスクが寄せられ、ホームレス当事者や、全国7つの連携団体とシェアしました。また当事者の、国の特別定額給付金申請をサポートしました。住民票の取り寄せや、事務所での書類受け取りを行い、28人が10万円を受け取りました。

4月3日から4回、都内ホームレス支援団体の連名で、路上生活者やネットカフェで暮らす人たちに安全な居場所を確保することなどを求めて、東京都に申し入れをしました。

また4月から、大阪のホームレス支援団体22団体による「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」に参加。8月末までに合同相談会を5度開催し、88人が相談に訪れました。これまで80人に511泊分のホテルでの緊急宿泊費を提供しました。

8月からは、東京・大阪18の困窮者支援団体と協働し「おうちをあなたに—コロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」（略称：おうちプロジェクト）を開始しました。コロナの影響で住まいや仕事を失った人、定まった住まいを持たない人200世帯に、賃貸住宅の初期費用などを最大30万円支払い、生活再建を応援します。この事業へは、米国コカ・コーラ財団から50万ドル（5357万3500円）の助成があり、このうち75%以上が当事者への直接支援に充てられます。

ホームレス当事者（経験者）や生活困窮者の生活の自立を応援するために、情報提供や、健康・住宅・仕事・法律などの相談対応、スポーツ・文化活動の応援を行いました。家はあるけれど生活に困っている人や、ネットカフェで暮らす若者、出所者・在監中の人、障害や持病をもつ人などからの多様な相談が増えています。こうした相談に対応するため、13 期前半は、複数団体による合同相談会や、今夜寝るところがない人に緊急宿泊費を提供するネットワークへの参加など、団体の枠をこえた連携・協働を広げました。そして期の後半では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより生活に困窮し、住まいを失う人をサポートするため、新たな連携ネットワークをつくって活動を展開しました。

【コロナ禍での活動―緊急市民ネットワークによる活動を展開】

事務所での感染拡大防止対策と緊急支援物資の募集

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった3月、民間の困窮者支援の活動も、大きく制限を受けました。東京・大阪の基金事務所では、医療や福祉などに関する相談の受付や、路上での仕事を応援することを目的に、感染予防のためのルールを設けて活動を継続しました。

スタッフやボランティア、来所するホームレス当事者や相談者には、入室時の検温、マスクの着用、手洗いの徹底、室内の換気など、感染拡大防止対策の協力を呼びかけました。そのほか、企業や一般の方から寄贈されたマスクや消毒液の配布や、休養のための緊急宿泊費の貸付、個室シェルターの準備などと並行して、体調不良者が出た場合の対処法について行政担当課や保健所と話し合いをしました。

民間の炊き出しなどが縮小され始めた3月には「Amazon ほしい物リスト」を活用して、食料品などの緊急支援物資を募集しました。この呼びかけに応じて、東京・大阪の事務所には約 5000 食の食料、7000 枚のマスクが寄せられ、基金の活動の中でホームレス当事者に手渡しで配布し、全国7つの連携団体にも送付しました。

ホームレスの人の特別定額給付金の申請&受け取りをサポート

ホームレス当事者の、国の特別定額給付金の申請と受け取りをサポートしました。給付金は住民票所在地に申請書が送付され、申請には本人確認書類が必要とされたため、ホームレス状態の人にとっては2重のハードルがありました。

基金では新たに住民登録をするための転出入手続きや、住民票所在地の確認、申請書類の基金事務所への送付調整、銀行口座の作成などをサポートし、28人が10万円の給付金を受け取りました。失踪宣告を受けて戸籍が抹消されていることがわかり、弁護士の助力で戸籍を復活して申請に至ったケースや、(有)ビッグイシュー日本が公式の販売者であることを示すために発行する「IDカード」が、申請時の本人確認書類として認められたケースもありました。

連携支援団体との緊急ネットワークによる活動

4月3日、都内ホームレス支援団体の連名で、路上生活者やネットカフェで暮らす人たちが利用できる、ホテルを活用した個室の居所を確保することを求めて、東京都に申し入れをしました。その後東京都は補正予算12億円を計上し、ホテルでの受け入れを開始しました。以降も、利用者に適切な情報提供をすることや、積極的な広報周知をすること、利用期限の延長などを求め、計4回の申し入れをしました。一連の活動には1万筆を超える賛同のウェブ署名が寄せられ、申し入れの際に東京都へ提出しました。

また4月から、NPO法人釜ヶ崎支援機構やNPO法人Homedoorなど大阪のホームレス支援団体22団体が参加する「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」の立ち上げに協力しました。このプロジェクトは、団体合同での相談会の開催や、一泊2500円程度のホテルでの緊急宿泊費の提供を目的とし、基金は相談対応や夜回り、広報などを担いました。

5回の合同相談会には88人が相談に訪れました。相談の内容は、日雇いや派遣の仕事がなくなり収入が途絶えた、ネットカフェの休業で泊まる場所がなくなった、府営住宅の利用を断られた、トランクルームや車中で寝泊まりしている、などのほか、国の特別定額給付金の受け取り方法や、服薬が中断しているため医療にかかりたい、など多様でした。2020年10月までに80人に511泊分の緊急宿泊費と、4000食の食料を提供しました。また、発足と同時に始めたクラウドファンディングには、522人の方から、715万3480円の寄付参加がありました。



都庁申し入れの様子



合同相談会の様子

「おうちプロジェクト」で住宅確保を応援

8月からは、東京・大阪18の困窮者支援団体と協働し「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」（略称：おうちプロジェクト）を開始しました。この事業では、コロナの影響で住まいや仕事を失った人、定まった住まいのない人200世帯に、賃貸住宅の初期費用などを最大30万円（平均20万円）支払うことで、安心して体を休められる住まいの確保を応援します。

日本には住宅確保の初期費用をサポートする公的施策はなく、国内の民間の取り組みでは過去最大規模の「ハウジングファースト型」（※注）のプロジェクトです。この事業には米国コカ・コーラ財団から50万ドル（5357万3500円）の助成があり、うち75%以上が当事者への直接支援に充てられます。2020年10月末までに46件の利用があり、10364348円を支出しました。2021年8月末までの時限事業として進めていきます。

（注：まず住まいを確保した上で、生活再建をサポートする、ホームレス支援の手法）



おうちプロジェクトのロゴ



仕組み図

【何があっても大丈夫——当事者への情報や交流機会などの提供】

「路上脱出ガイド」から、「生活 SOS ガイド」へ

2009 年から発行を続ける『路上脱出ガイド』には、路上を生き抜く上で必要な炊き出しや緊急支援の情報を中心に掲載しています。これまで、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国 7 地域で発行。東京・大阪以外のガイドは、各地域のボランティアが中心となって編集・発行作業が行われており、基金は必要に応じて印刷費を負担するなどの応援をしています。

東京 23 区編と大阪編は、2017 年から、これまでの路上生活者を対象とした『路上脱出ガイド』から、若者や女性、ひとり親など生活に困窮するリスクが高く、住まいを失いそうな人々も利用できる支援情報をまとめた『路上脱出・生活 SOS ガイド』として刷新しました。夜回りなどの基金の活動や、連携支援団体、ボランティアの協力により、2009 年の発行から累計で東京 8 万 7556 部、大阪 3 万 9038 部を配布しました。



※それぞれのガイドは基金HPからPDF版をダウンロードできます（無料）

『路上脱出・生活 SOS ガイド』（東京 23 区編）は 18 年 12 月の初版発行以来、1 万 6500 部を配布し、20 年 6 月に改訂第 3 版として 6500 部を増刷しました。コロナ禍への対応のため、NPO や行政の支援内容を最新のものにしたほか、今夜宿のない人に一泊 3000 円を提供する東京アンブレラ基金の情報を追加し、8 月末までに 3056 部を配布しました。

『路上脱出・生活 SOS ガイド』（大阪編）は 17 年の初版発行以来、1 万 5306 部を配布しました。図書館や保護観察所などの公共施設からも送付依頼があり、今期は 1969 部を配布しました。

また、基金HPで公開している東京・大阪ガイドのウェブ版には、月平均約 2 万 8300 件のアクセスがあり、特にコロナの影響が出始めた 20 年 3 月～5 月は前年比で 3 倍ほどの閲覧がありました。スマートフォン・タブレットからのアクセスも多く、携帯端末は持っているが困窮状態にある当事者の増加がうかがえます。

夜回り・道端交流会

大阪では（有）ビッグイシュー日本と合同で月 2 回の夜回りと昼の炊き出し回りを、東京でも一般社団法人つくろい東京ファンドと月 1 回の合同夜回りを継続しました。『路上脱出・生活 SOS ガイド』や、当事者が参加可能なイベントや路上での雑誌販売の仕事に関する情報などを掲載したチラシ「ビッグイシュー通信」、寄付品の衣料品やカイロなどを延べ 1858 人に配布しました。当事者の交流と楽しみのある場である大阪の「道端交流会」では、ビデオ上映会を西成区で 2 回開催し、24 人が参加しました。

食料品の提供

東京・大阪それぞれの事務所で、個人や企業、連携NPOなどから寄贈された食料品や食事券をストックし、相談来所者や夜回りで出会うホームレス当事者に手渡しました。収入や家はあっても食べることに困っているという相談者には、お米などを持ち帰ってもらい、利用できる生活支援についての情報提供をし、必要に応じて支援団体や行政窓口とのつなぎ役をしました。

定例サロン

ホームレス当事者が参加して、仕事と生活を語り、交流する場として月に1回「定例サロン」を開きました。今期はボランティアとの感謝・交流パーティや、イベント企画の話し合い、ともに路上の仕事をした仲間を偲ぶ会、書初めなどをしました。大阪では3月以降、感染予防のため事務所近くの公園などで「青空サロン」を開催。コロナ禍での路上の仕事についての情報交換や熱中症対策、特別定額給付金の受け取り方についての情報提供なども行いました。

クリスマス・越年の活動

毎年恒例の大阪ホームレスクリスマスパーティでは、“聖夜に伝統芸能！？笑って泣ける講談と風変わりワークショップで彩るクリスマス”をテーマに市民、ホームレス当事者、ボランティア、スタッフ計222人が参加。講師・玉田玉秀斎さんによる古典講談が披露され、ホームレス当事者4人による講談部は「俺たちにクリスマスは関係ない」というテーマの創作講談を講じました。また、パーティ内では体験型ワークショップ（飾り切り体験、整体、ナイトウォーク、シルクスクリーンプリント体験など）も楽しみました。



第11回大阪ホームレスクリスマスパーティ

東京でも当事者による実行委員会を中心に、ビッグイシュー誌に関連するクイズ企画などに挑戦。市民、当事者、ボランティア、スタッフなど50人が交流しました。

越年・越冬の活動では、一般社団法人つくろい東京ファンドとNPO法人POSS Eが協働して開いた無料の食事提供と労働・生活相談の場「年越し大人食堂」に参加し、食事の提供や広報、相談対応などに協力しました。当日の料理は料理研究家で基金共同代表の枝元なほみが担当し、おこわおむすび、白菜と豚肉のスープ、鹿肉や猪肉のカレーなどがふるまわれました。2日間で約80人が来場し、うち29人に「東京アンブレラ基金」から宿泊費が提供されました。また、仙台、池袋、立川、大阪市西成区、岡山、鹿児島での越冬支援活動に食材費の一部を提供しました。年末年始には行政の支援が手薄になるため、簡易宿泊所やネットカフェなどでの緊急宿泊費用の一部を東京・大阪で計14人に提供しました。

【暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動】

定例の個別相談会や巡回相談など、当事者が困りごとを相談できる場を設け、希望によって弁護士や医師、カウンセラーなど、専門家につなぎ、当たりまえの暮らしを取りもどすサポートをしています。

健康・福祉相談

大阪では月1回、府保険医協会と歯科保健研究会、プロボノ鍼灸師の協力を得て、内科・歯科・はり灸の健康相談会を開き、延べ114人が参加しました。3月以降はコロナの感染拡大予防を徹底したうえで開催しました。緊急事態宣言が出された4月5月の相談会は中止とし、体調不良の人には無料低額診療事業を行う総合病院へつないだり、静養できる個室の居所を提供することで対応しました。東京では8月から、看護師のプロボノによる血圧、脈拍など健康チェックのための相談会を開始しました。



歯科相談会（大阪）

法律相談、住宅相談

法律相談では路上生活者の支援に詳しい弁護士の助力を得て、大阪で3人の法律相談に対応しました。債務整理のための書類作成サポートのほか、家族により失踪宣告が出され、戸籍が抹消されていた人の失踪宣告の取消申し立てをサポートした事例もありました。

住宅相談では、居住支援法人や不動産業者と連携し、初期費用・保証人が不要な低家賃住宅の情報提供をしました。また、住居費と生活費の試算、引っ越しの手伝い、住民票移動、賃貸契約の立ち合いなど、安定した住まいの確保の維持をサポートしました。さらに、12月からは（一社）つくろい東京ファンドを中心とした支援ネットワーク「東京アンブレラ基金」にも参加し、緊急の宿泊支援を必要とする人に宿泊費として1泊3000円を提供する支援を開始しました。また、路上からの一時的な居所として利用できるステップハウスとシェルター（13p.参照）を東西で8室運用し、延べ146人が利用しました。

金銭管理、緊急時のサポート

路上で現金や身分証などを携行するのは紛失や盗難の危険があります。住所がないためすぐに銀行口座をつくれない人に向けて、積立金・貴重品の保管手伝いをしました。アパート入居の初期費用や、仕事のための定期券購入など、生活再建に必要な経費の積立を目的に、29人の利用がありました。

また、台風や豪雨、氷点下の日など、命の危険がある際には、路上ではなく簡易宿泊所やネットカフェなどに一時避難するための費用の貸付を行い、今期は延べ39人が利用しました。

【仕事がしたい——仕事・就業応援プログラム】

雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

再就職の足掛かりに、生活に困っている人なら誰でもすぐに始められ、現金を得られる仕事、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を勧め、必要なサポートをしました。

2020年8月現在、ビッグイシュー誌の販売者は、全国で106人です。販売場所への定期的な巡回・ヒアリングの機会をつくり、必要に応じて健康や住宅などの相談事業につなげました。また、夏場には、

熱中症予防のために塩飴や経口補水液を配布し、定例サロンで暑さ対策を話し合うなど、健康に販売できるように応援しました。

2月には、韓国・オーストラリアでストリートペーパーを発行する団体が日本に集い、各社の取り組みについて共有・議論した「アジア・パシフィック・ストリートペーパー・ネットワーク会議」に参加・協力し、資金調達の方法や、住まいの支援などについて意見交換をしました。

就業応援の連携事業

連携NPOや学校関係者の依頼を受け、当事者が講師となりホームレス問題や仕事について語る場を企画、運営しました。また、プロボノカウンセラーによるコーチングやカウンセリングの場を設けたり、フットウェアメーカーの協力を得てシューズ販売の体験ができる会を開くなど、仕事について考え、関わる機会をつくりました。

家は確保できたが、安定した収入が得られる仕事について相談したい、という人には職業仲介を行う連携NPOや、就労支援を行う行政窓口の情報提供をし、必要に応じて同行しました。

また、企業や市民からの衣料品や靴、衛生用品の寄付を受け入れて提供したり、プロ美容師ボランティアによるヘアカットの場を設けるなど、身だしなみを整える場と機会をつくりました。



『ビッグイシュー日本版』販売の様子

ビッグイシュー卒業生・就業者との関わり

住居を得てビッグイシューを卒業した人とも、年賀状のやり取りや定例サロン、パーティなどのイベント、サッカーなどクラブ活動への参加を促し、継続してつながれる機会をつくりました。また、卒業後の仕事や生活状況についてヒアリングをし、年金受給や福祉制度の利用をサポートしました。

【生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム】

基金では設立以来、ホームレス当事者による「スポーツ・文化活動」を応援しています。孤立しホームレス状態になった経験のある人が、再び人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲を回復する機会になるからです。13期も多くのボランティア参加を得て、既存のクラブが活動しました。3月以降はコロナの影響で、寄り集まっていた活動が困難になりましたが、オンライン形式や、感染予防をした上での活動を参加者で話し合いながら模索しました。

スポーツ活動—ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は、19年9月～20年2月まで東西で月2回の定例練習を継続しました。ひきこもりや不登校の経験者なども参加する、多様な人が集う場となっています。

3月以降はコロナの感染拡大のため練習は休止し、インターネットのビデオ会議サービスを利用してのトレーニングにもチャレンジしました。また、フィンランドで開催を予定していたホームレスの人だけが参加できるミニサッカーの国際大会「ホームレス・ワールドカップ」は、コロナの影響で中止になりました。その代替行事としてオンラインでのリフティング大会などが開催され、日本からは大阪の野武士ジャパンメンバーがエントリーしました。

ダイバーシティサッカー協会——NPO法人化し事業拡大へ

基金から独立して設立された「ダイバーシティサッカー協会」は、20年3月にNPO法人化しました。基金では、法人化に必要な事務などを応援しました。同協会は、ホームレスやひきこもり、不登校、依存症、うつ病の当事者・経験者などが参加するフットサル大会「ダイバーシティカップ」の開催やスポーツを通じた日常的な居場所づくりの応援、関連する活動の調査・研究などを活動の軸に掲げています。2月8日には東京・多摩市で「ダイバーシティミニカップ」を開催。多様な背景をもつ当事者による8チーム、約100人が参加し、交流しました。



2月のダイバーシティミニカップ（東京）

文化活動——多様に広がるボランティア参加と社会への発信

東京では事務所のベランダで野菜を育てる家庭菜園部が活動を継続しました。ボランティアのアドバイスも受けながら育てたレタスやトマトを、料理部がサラダに使うなど、クラブ同士のコラボも実現しました。月2回のパソコンクラブでは、ボランティア講師に教わりながら、ブラインドタッチなどにも挑戦しています。英語クラブも月に2回、講師が準備した教材プリントや音楽などを通じて日常会話を学びました。また、ダンサーのアオキ裕キさんとともにつくる、路上生活者や、路上生活経験者によるコンテンポラリー・ダンスチーム「新人Hソケリッサ！」の活動を、練習場所の確保や広報で応援しました。彼らの活動を追ったドキュメンタリー映画『ダンシングホームレス』は3月からこれまでに全国7ヶ所で公開され、上映館でのイベント広報にも協力しました。

大阪では、街歩きクラブ「歩こう会」が月例で開催され、6月には開催118回目を迎えました。前12期に発足した、講談師の玉田玉秀齋さんが指導する「講談部」は定例の稽古を重ね、玉田さんが主催する「ビッグイシュー講談会」で自身の路上生活の体験などを創作講談にして披露しました。12月のクリスマスパーティ（9p.参照）やビッグイシュー日本のYouTubeチャンネルでも講談を披露するなど、活動の場が広がりました。



ベランダでの家庭菜園



玉田玉秀齋さん（中央）と講談部

生きやすい社会をととのえる

——ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案

【くらしの基盤をつくる——住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、「住宅政策提案・検討委員会」（委員長：平山洋介神戸大学大学院教授）を設け、3冊の調査・提案の報告書を発行してきました。（18p. 参照）

安定した住まいがない人がいる一方、全国で846万戸（2018年総務省調査）といわれる「空き家」が社会問題化しています。これらをマッチングして解決する方策を模索する実験・モデル事業として「ステップハウス」を運営しています。ステップハウスは、協力家主から提供された空き物件を基金が借り受け、ホームレス状態の人に低廉な利用料（月15000円～）で提供します。初期費用、保証人なしで一定期間（6か月～）利用でき、利用料の一部が本人の積立金になります。たとえば利用料15000円の部屋を半年間利用した場合、家賃分（月5千円）を差し引いた6万円が手元に残ります。この積立金と基金の各種サポートを活用して、次の「ステップ」を応援しています。

大阪「悟楽堂」は、開設から5年目を迎えました。今期はステップハウス4室、緊急用シェルター1室を、ステップハウス6人、シェルター延べ130人が利用し、5人が次の住まいに移りました。ここでの住民登録や身分証の取得などが、国の特別定額給付金の受け取りにもつながりました。

今期は東京でも協力家主と連携して、新たに都内の空き物件をステップハウス「すまいるハウス」として開設しました。20年3月には、(一社)つくろい東京ファンドと連携し、コロナの影響で寝場所を失った人が一時避難できるシェルター「ふたまるハウス」の管理・運用も開始。ステップハウス2人、シェルター延べ8人が利用しました。

コロナ禍により、入居のハードルが低く、低廉な家賃で、防疫上にも合理的な「個室」の居所をどう用意するか、という社会課題が明確に浮かび上がりました。これまでのステップハウスの事例、また8月から始まった「おうちプロジェクト」（7p. 参照）でも事例を積み重ね、実践的な提案につなげたいと考えています。



ステップハウス「悟楽堂」



シェルター「ふたまるハウス」

【新しい仕事をつくる——若者をホームレスにしないために】

これまでの若者のホームレス化予防への取り組みで明らかになったのは、「出口≒仕事づくり」の極端な不足でした。基金では、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時に新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の可能性に着目し、事例調査や推進会議の開催、報告書の発行などの作業を通じて「小規模でも持続可能な仕事」をどうつくり、応援するかを議論してきました。

今期は基金共同代表の枝元なほみが参加して、(有)ビッグイシュー日本の新規事業「夜のパン屋さん（B I ブレッド）」のオープン準備を進めました。この事業では、その日に売れ残ってしまいそうなパンを複数の協力パン屋から預かり販売することで食品ロスを減らし、同時にそのピックアップと販売を、ホームレス当事者や生活に困っている人の仕事にしていくことを目指しています。20年10月16日にグランドオープンを迎え、14期は基金でも同プロジェクトとの連携・協力を深めていきます。

【依存症からの脱却——ギャンブル障害の調査・提案事業】

ホームレス状態にいたるきっかけのひとつであり、そこからの脱出を阻む足かせでもあるのが、ギャンブル障害の問題です。

基金ではこの問題を考え、支援の方策を検討するために、共同代表の米本昌平を中心に複数の研究会を設け、そこでの議論を『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』（2015年/A4判/32p.）、『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』（2016年/A4判/88p.）、『新版 疑似カジノ化している日本—ギャンブル障害を乗り越える社会へ』（2018年/A4判/36p.）として報告書にまとめました（18p.参照）。また、2018年12月30日から19年1月4日には京都大学大学院医学研究科と共同で、大阪市西成区のシェルターなどを利用するホームレス状態の当事者121人を対象にギャンブルとの関わりを聞く調査を行いました。

今期は、その結果の一部を、2019年10月開催の「2019年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会」（於：札幌）と、同年11月開催の「第21回国際嗜癖医学会年次学術総会」（於：ニューデリー）の2つの学会で発表しました。そして12月に結果の概要を報告書『ホームレス状態とギャンブル障害—121人のヒアリングから』（2019年/A4判/12p.）にまとめました。

調査参加者の9割超の人がパチンコを含むギャンブルをした経験があり、そのうち42.1%の人が、これまでの人生でギャンブル障害だった期間があることがわかりました。また、その9割は「ギャンブルのために困った経験」や「ギャンブルのために借金をした経験」があるなど、ホームレス状態とギャンブル障害との関係も見えてきました。

報告書は5000部を発行し、4031部を無料で配布しました。市民やホームレス支援団体、研究者、各地のIR誘致反対運動に取り組む市民団体など、多様な人から請求がありました。

2020年3月には、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科、社会デザイン研究所との共催で、公開シンポジウム『ギャンブル依存症と日本社会』の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で無期延期となりました。

はじめに—一念だった当事者の聞き取り調査

- ・ 入口、かつ出口への壁—ホームレス化とギャンブル障害
- ・ 13年の道のり—ギャンブル障害と当事者への調査

1. 平均年齢は58.8歳—121人の調査参加者

- ・ 半数は60歳以上—年齢と収入、学歴と婚姻歴
- ・ 4人に1人が10年以上—ホームレス歴と生活保護の利用

2. パチンコ、競馬、パチスロ—ホームレスの人のギャンブル経験

- ・ パチンコは9割—ギャンブル経験の内容
- ・ 半数が年収300万円未満—実施頻度、使った費用、当時の年収
- ・ 4人に1人がサラ金、闇金を利用—大事な人やものを失う、借金の経験など
- ・ 一般の人の6.3倍—ギャンブル障害該当者の割合

3. 9割が大事なものを失う—ギャンブル障害該当者のいま

- ・ 50歳代に多い—年齢、婚姻、ホームレス経験、受刑歴
- ・ 初体験はパチンコ—開始年齢と経験種目、使った費用など
- ・ 月平均20万円余を使う—実施頻度、使ったお金、年収
- ・ 9割が金融機関使う—困ったり、大事なものを失ったりした経験、借金、しなくなった理由
- ・ 深刻じゃない、自分の責任—相談しない理由、人間関係、反対された経験

4. その他の依存症—アルコールとニコチン

- ・ ギャンブル場へは1時間以内—所要時間、交通費、入場条件
- ・ 喫煙者は2.5倍—ギャンブルとアルコール、ニコチンの依存症

おわりに



『ホームレス状態とギャンブル障害
—121人のヒアリングから』

報告書の目次内容

【参加のチャンスをつくる― ボランティア参加プログラム】

ボランティア登録者数の累計は、東京 681 人、大阪 497 人のほか、札幌、仙台、立川、横浜、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーター約 69 人、あわせて合計 1247 人でした。

また今期は、2 人のインターンを受け入れ、ホームレス問題に主体的に関わる場と機会を提供しました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習のほか、おにぎり作り、イベントの準備や撮影記録、夜回りなどの巡回活動、月例サロンでの調理補助、クラ

ブ活動講師など、多様な形の参加がありました。3 月以降はコロナの感染拡大を防止するため、広く参加を募るプログラムを休止し、参加・協力者と随時話し合いをしながら活動を進めました。



オンラインでのボランティア説明会

(ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1 回開催)

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動、ボランティアを多くの人に知っていただくため、東京・大阪で月 1 回定例の説明会を開催しています。19 年 9 月から 20 年 2 月までで大阪は 23 人、東京で 27 人の参加がありました。6 月からはビデオ会議ツール「Zoom」を使ったオンライン形式で開催し、全国各地から 23 人が参加しました。説明会の後、希望者にはボランティアメーリングリストに入ってください、定期的にイベントやボランティアの情報をお伝えしています。

※参加をご希望の方は、基金サイト (<https://bigissue.or.jp/>) のイベント一覧から、またはお電話（大阪：06-6345-1517、東京：03-6380-5088）で、ご連絡ください。

【市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付―寄付参加プログラム】

市民応援会員と寄付参加者は合計延べ 4280 人、会費、寄付をあわせた合計金額は 6633 万円となりました。前 12 期と比較して、寄付参加者延べ人数は 1311 人増え、寄付金額では 243 万円増加しました。人数の大幅な増加は 4 月以降特に顕著で、コロナ禍でのホームレス当事者、生活困窮者への緊急支援の活動に、多くのみなさんから寄付参加をいただいたためです。

会員・寄付者の内訳

第 13 期の市民応援会員、メニュー寄付参加者、任意寄付参加者は以下の通りとなりました。
(市民応援会員)

にっこり (335 人) / ひとり立ち (94 人) 計 429 人 (会費金額 973 万円) / 企業・団体 サポーター 計 2 件 (会費金額計 125 万円) → 個人、団体合計 1098 万円

(メニュー寄付への参加)

出合い (508 人) / つながりウォーク (490 人) / 実践応援ラン (191 人) / 社会包摂マラソン (146 人) / 市民信頼社会 (103 人) 計 1438 人 (メニュー寄付金額計 2886 万円)

(任意寄付)

任意寄付は 1758 人、遺贈寄付は 2 人、その他寄付 (チャリボン等) は 651 人、計 2411 人 (任意、遺贈、その他の寄付金額計 2650 万円)

こうした市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付は目的や用途などを限定される補助金などとは違う、独自の縛られない資金に支えられて、新型コロナウイルスのパンデミックという社会的危機の中においても、既存の活動を継続し、緊急対応のための新たなネットワークづくりにもチャレンジできました。改めて寄付参加者のみなさんに心からの感謝とお礼を申し上げます。

会報として送付している雑誌『ビッグイシュー日本版』内ビッグイシュー基金通信の「希望前線」欄において活動報告を行い、また、寄付参加者の方へは、毎月、ニュースレターでの事前、事後の報告などで、ともに活動をしていく参加者になっていただけるよう努力しています。また、寄付金については税制優遇を受けていただけるため、2019年度分の寄付金控除のための領収書を920人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額合計は約1742万円となりました（20年1月下旬送付）。

なお今期は寄付参加促進のため、3月にはおにぎりなど事務所で配布できる食料品の購入費用や連携団体への送料の一部として緊急の寄付を呼びかけました。また4月には国の特別定額給付金を活用しての、基金や連携ネットワークの活動への寄付参加を呼びかけました。さらに、3月と8月には上記「希望前線」欄に遺贈寄付広告を掲載しました。引き続き寄付参加しやすい仕組みづくりを検討していきます。

（物品寄付）

基金HP、FacebookやTwitterなどのSNS、メーリングリストなどを通じて寄付募集を行いました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、生活用品やタオルなどの寄付をいただき、今期846件（東京440件、大阪406件）の物品寄付がありました。マスク、消毒液などの衛生用品も多数寄せられ、これらは随時、夜回りや事務所に訪れた当事者の方に配布しました。

古本でホームレスの人を中心に生活困窮者の自立を応援—チャリボン

書籍やDVDなどをバリューボックスに送ることでNPOに寄付できる仕組みが「チャリボン」です。2013年4月から2020年8月末までに3629人の方から古本などをお送りいただき、買い取り相当額の703万7674円のご寄付をいただきました。仕組みや詳細についてはチャリボンのウェブサイト（<https://www.charibon.jp/>）をご覧ください。

広報—インターネットでの広報に注力

広報活動では、基金だよりや基金通信「希望前線」を各24回発行しました。また、（有）ビッグイシュー日本と連携をしながら、SNSでの広報にも力を入れました。「ビッグイシューオンライン」などの各種メディアでは、イベントレポートや貧困・排除に関連した記事を作成し、発信しました。コロナの路上への影響や、「おうちプロジェクト」に関連したマスメディア取材に対応したほか、オンライン上でのイベント登壇なども行いました。そのほか、「ホームレス」「炊き出し」「シェルター」などの単語から基金HPに誘導する広告文を表示する、「Google 広告」を継続的に運用しました。

メディア掲載

(新聞)

11月5日 読売新聞(講談部)／12月23日 読売新聞(クリスマスパーティ)／3月6日 朝日新聞夕刊(ソケリッサ)／3月10日 朝日新聞(ソケリッサ)／4月23日 朝日新聞大阪版夕刊(コロナ禍の活動)／4月28日 読売新聞大阪版朝刊(コロナ禍の活動)／4月28日 産経新聞大阪版夕刊(コロナ禍の活動)／5月3日 朝日新聞大阪版朝刊(コロナ禍の活動)／5月27日 毎日新聞(コロナ禍の活動)／5月30日 大阪日日新聞(コロナ禍の活動)／6月10日 毎日新聞大阪版(コロナ禍の活動)／7月3日 食品産業新聞社(おうちPJ)／7月15日 毎日新聞(コロナ禍の活動)／7月15日 食品新聞(おうちPJ)

(雑誌、機関紙など)

2月1日『第三文明』3月号(クリスマスパーティ)／4月16日『女性セブン』(SOSガイド)／7月1日『月間なび』7月号(コロナ禍の活動)／8月20日『コトノネ』(基金の活動)

(テレビ・ラジオ)

11月5日 関西テレビ「報道ランナー」(講談部)／12月25日 関西テレビ「報道ランナー」(講談部)／4月23日 NHK 関西のニュース(コロナ禍の活動)／4月23日 関西テレビ「報道ランナー」(コロナ禍の活動)／5月5日 かわさきFM「浅羽由紀 Four-leaf clover ♪」(コロナ禍の活動)／5月7日 朝日放送「キャスト」(コロナ禍の活動)／5月29日 朝日放送「キャスト」(コロナ禍の活動)／5月29日 NHK「不可避研究中」(ソケリッサ)／6月2日 読売テレビ「かんさい情報ネット ten.」(コロナ禍の活動)／6月3日 NHK「クローズアップ現在+」(コロナ禍の活動)／6月26日 NHK「不可避研究中」(ソケリッサ)／7月26日 J-WAVE「ACROSS THE SKY」(基金の活動)

(Web メディア)

12月9日 映画.com(ソケリッサ)／12月9日 映画ナタリー(ソケリッサ)／12月9日 ムビッチ(ソケリッサ)／12月10日 anemo(ソケリッサ)／3月2日 論座(ギャンブル障害)／3月6日 映画.com(ソケリッサ)／3月7日 nippon.com(ソケリッサ)／3月10日 HUFFPOST(ソケリッサ)／3月11日 読売新聞「ヨミドクター」(ギャンブル障害)／3月11日 ウェブサイト「マガジン9」(SOSガイド)／4月3日 毎日新聞デジタル(コロナ禍の活動)／4月3日 NHK NEWS WEB(コロナ禍の活動)／4月3日 BuzzFeed(コロナ禍の活動)／5月27日 BuzzFeed(コロナ禍の活動)／7月2日 alterna(おうちPJ)／7月5日 Forbes JAPAN(ソケリッサ)／7月10日 cinefil(ホームレス問題)／7月11日 ORICON NEWS(ホームレス問題)／7月14日 NHK 首都圏 NEWS WEB(コロナ禍の活動)／8月27日 BuzzFeed(おうちPJ)

オフィスの新規拡張を兼ねた「市民交流サロン」の創設

当事者、ボランティア、スタッフが集まり、活動するビッグイシュー事務所は年々手狭になり、今期は大阪のオフィス移転、拡張を検討していました。コロナの影響で保留となっていますが、継続して当事者や市民が参加して活動できるプログラムと場のあり方を検討しながら、移転先物件の情報収集を続けます。

これまでの発行物一覧



『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編
2020年6月(A5/56p)



『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編
2018年5月(A5/44p)



『ホームレス状態とギャンブル障害』
2019年12月(A4/12p)



『新版 疑似カジノ化している日本』
2018年10月(A4/36p)



『ギャンブル依存症からの生還』
2016年8月(A4/88p)



『若者の住宅問題 & 空き家活用』
2015年10月(A4/24p)



『若者の住宅問題 - 住宅政策提案書 [調査編]』※絶版
2014年12月(A4/40p)



『住宅政策提案書』
2013年10月(A4/24p)



『若者政策提案書』
2015年2月(A4/32p)



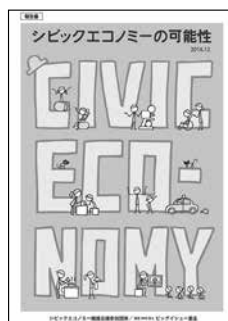
『若者応援プログラム集』※絶版
2014年3月(A4/116P)



『若者ホームレス白書②』
2012年3月(B5/32P)



『若者ホームレス白書』※絶版
2010年12月(B5/32P)



『シビックエコノミーの可能性』
2016年12月(A4/32p)



『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』
2019年3月(A4/32p)



『社会(スポーツ)をあそぶガイドブック
—サッカーが作る居心地の良い社会』
2018年3月(A4/56p)



『第2回ダイバーシティカップ報告書』
2016年11月(A4/56p)

※上記資料は、無料で配布中です。お名前・ご住所・冊数などを HP の入力フォーム、または FAX でお知らせください。(着払い送料のみご負担をお願いします)

ありがとうございました ―― 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団／東京アンブレラ基金（一般社団法人つくろい東京ファンド）
／ The Coca-Cola Foundation

【企業・団体寄付】

アテネ出版社／株式会社北洋舎クリーニング／宗教法人 日本基督教団 軽井沢追分教会／ウミネコ
マーケット／キーン・ジャパン合同会社／日本基督教団代々木上原教会／有限会社イーズ／（有）岩
尾商事／バーニソン合同会社／ティグレ連合会／浄土真宗厳念寺／社会福祉法人そうそうの杜 びんの
杜基金／仏教を初歩英語で学び実践するサンガの会／シアターキノ／幼きイエス会／日本ライフレイ
株式会社

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、<https://giveone.net/>）
株式会社バリュースボックス（チャリボン、<https://www.charibon.jp/>）

【物資の寄付】

UBS 証券株式会社（食品、衣料、日用品など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／キーン・ジャ
パン合同会社（靴、衛生用品）／ペンション ボスケット（衣料）／ディーズホール（衣料）／伊賀
市国際交流協会（衣料）／株式会社 nakota（衣料）／一般社団法人まがたま（日用品）／明星寺（食品）
／株式会社 Bio Harmony（衣料）／irodori military（食品）／あんざわ法律事務所（食品）／ぬ
いぐるみ工房 NUWASU 曾我阿紀（日用品）／国際救急法研究所（衣料）／NPO 法人足尾に緑を育
てる会（衛生用品）／株式会社 I-ne（日用品）／神戸市自治会連絡協議会（食品）／開誠株式会社（衛
生用品）／オーエムネットワーク株式会社（食品）／一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）（衛
生用品）／認定 NPO 法人抱樸（衛生用品）／Natural Play（衛生用品）／ビッグイシュー静岡読者会・
フェアトレードショップ Teebom（衣料）／株式会社精研 大阪支店（日用品）／ハリー鍼灸院（食品）

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人仙台夜まわりグループ／
NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／びよんど
ネット（三鷹市）／真宗大谷派聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎
支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山・ホームレス
支援きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューか
ごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

決算報告

第13期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は6926万円となりました。第12期と比べ、会費収入は170万円、寄付金収入では75万円の増収となりました。この結果、第13期の正味財産増減額は2851万円となり、第12期の繰越金2163万円をあわせて、5014万円の剰余金を計上することができました。なお、今期受け入れた「おうちプロジェクト」への助成金(5357万円)のうち、来期の2021年8月までの事業を行う5206万円については、第14期に繰り越しています。(注記の5.を参照)

【活動計算書 2019年9月1日から2020年8月31日まで】

科 目	金額 (単位: 円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	170,000	
賛助会員受取会費	10,975,000	11,145,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	55,359,590	55,359,590
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,691,561	1,691,561
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	702,655	702,655
5. その他収益		
受取利息	234	
雑収益	358,648	358,882
経常収益 計		69,257,688
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	8,813,200	
臨時雇賃金	5,301,517	
法定福利費	1,922,817	
通勤費	962,964	17,000,498
その他経費		
業務委託費	1,088,371	
諸謝金	71,137	
印刷製本費	418,166	
会議費	522,699	
旅費交通費	1,018,095	
通信運搬費	2,053,328	
消耗品費	1,836,261	
家賃(光熱費含)	3,203,503	
賃借料	832,441	
保険料	28,650	
諸会費	50,000	
租税公課	10,550	
研修費	112,384	
広報費	3,110,400	
会報費	2,866,320	
寄付金	170,000	
支払手数料	1,098,422	
入居初期費用支援金	454,139	
雑費	402,649	19,347,515
事業費 計		36,348,013
2. 管理費		
人件費		
役員報酬	1,050,000	
給料手当	1,010,840	
臨時雇賃金	33,280	
法定福利費	88,119	
通勤費	50,140	
福利厚生費	7,000	2,239,379
その他経費		
印刷製本費	133,737	
会議費	15,543	
旅費交通費	212,944	
通信運搬費	456,036	
消耗品費	56,699	
家賃(光熱費含)	204,479	
賃借料	180,780	
租税公課	2,700	
研修費	7,700	
支払手数料	696,316	
支払利息	57,575	2,024,509
管理費 計		4,263,888
経常費用 計		40,611,901
税引前当期正味財産増減額		28,645,787
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		28,505,787
前期正味財産額		21,630,314
次期正味財産額		50,136,101

【貸借対照表 2020年8月31日現在】

科 目	金額 (単位: 円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	108,040,919		
未収金	230,000	108,270,919	
2. 固定資産			
資産合計		0	108,270,919
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	52,064,539		
仮受金	1,745,790		
未払金	328,000		
長期借入金(1年内返済予定)	1,044,000		
預り金	69,142		
当事者預り金	1,230,347	56,481,818	
2. 固定負債			
長期借入金	1,653,000	1,653,000	
負債合計			58,134,818
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		21,630,314	
当期正味財産増減額		28,505,787	
正味財産合計			50,136,101
負債及び正味財産合計			108,270,919

【財産目録 2020年8月31日現在】

科目・摘要	金額 (単位: 円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	1,114,405		
普通預金(三菱UFJ銀行堂島支店)	45,190,059		
普通預金(三菱UFJ銀行助成用)	52,339,405		
普通預金(三菱UFJ銀行新宿支店)	550,000		
郵便振替	6,714,321		
普通預金(ゆうちょ銀行)	1,564,160		
普通預金(三井住友銀行)	353,996		
普通預金(みずほ銀行)	214,573		
未収金			
賛助会員受取会費未収金(カード利用)	230,000	108,270,919	
2. 固定資産			
資産合計		0	108,270,919
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金(米国・The Coca-Cola Foundation)	52,064,539		
仮受金(南ビッグイシュー日本他)	1,745,790		
未払金(エンジャパン(株)他)	328,000		
長期借入金(1年内返済予定)(日本政策金融公庫)	1,044,000		
預り金(源泉所得税)	69,142		
当事者預り金(生活自立積立金)	1,230,347	56,481,818	
2. 固定負債			
長期借入金(日本政策金融公庫)	1,653,000	1,653,000	
負債合計			58,134,818
正味財産			50,136,101

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者 や市民の参加応 援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化 活動応援	若者応援 ネットワーク	住宅政策提案	ギャンブル 依存症問題		
人件費								
給料手当	5,804,060	322,830	676,070	284,400	315,360	841,680	568,800	8,813,200
臨時雇賃金	4,556,653	174,154	524,392	0	0	0	46,318	5,301,517
法定福利費	1,314,926	103,739	193,148	44,060	48,834	129,991	88,119	1,922,817
通勤費	714,504	26,185	67,591	21,240	23,792	67,172	42,480	962,964
人件費計	12,390,143	626,908	1,461,201	349,700	387,986	1,038,843	745,717	17,000,498
その他経費								
業務委託費	90,400	0	840,000	0	0	147,971	10,000	1,088,371
諸謝金	71,137	0	0	0	0	0	0	71,137
印刷製本費	205,906	0	0	0	0	182,260	30,000	418,166
会議費	375,640	11,867	112,258	0	2,000	1,200	19,734	522,699
旅費交通費	504,531	25,980	100,674	46,301	87,810	195,229	57,570	1,018,095
通信運搬費	78,197	0	0	0	0	0	1,975,131	2,053,328
消耗品費	1,498,650	39,437	6,639	0	0	0	291,535	1,836,261
家賃（光熱費含）	2,317,428	68,160	238,559	102,239	102,239	170,399	204,479	3,203,503
賃借料	726,601	0	105,840	0	0	0	0	832,441
保険料	28,650	0	0	0	0	0	0	28,650
諸会費	40,000	0	0	0	0	0	10,000	50,000
租税公課	10,550	0	0	0	0	0	0	10,550
研修費	1,830	0	0	0	1,980	108,574	0	112,384
広報費	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	2,866,320	2,866,320
寄付金	170,000	0	0	0	0	0	0	170,000
支払手数料	323,316	42,555	565	0	0	3,065	728,921	1,098,422
入居初期費用支援金	454,139	0	0	0	0	0	0	454,139
雑費	367,849	10,400	24,400	0	0	0	0	402,649
その他経費計	7,264,824	198,399	1,428,935	148,540	194,029	808,698	9,304,090	19,347,515
事業費計	19,654,967	825,307	2,890,136	498,240	582,015	1,847,541	10,049,807	36,348,013

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	652,100	578,247	1,230,347
合計	652,100	578,247	1,230,347

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に 計上された金額	内役員及び 近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,407,982	3,407,982
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	2,866,320	2,866,320

5、使途が制約された助成金の内訳

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備考
「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」助成金（米国・The Coca-Cola Foundation）	0	1,508,961	1,508,961	0	「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」に対する助成金 53,573,500 円のうち、未使用の 52,064,539 円は前受助成金として負債に計上しています。

6、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	3,741,000	0	1,044,000	2,697,000
合計	3,741,000	0	1,044,000	2,697,000

監査報告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2019（令和元）年9月1日から2020（令和2）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

2020（令和2）年10月23日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木 原 万 樹 子



社会を変えるのはあなたの寄付です ― 会員・寄付の制度について

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。基金に寄付していただくと、寄付額の4割弱が納められた所得税から返金されます（一部の地域では個人住民税も税額控除の対象となります）。公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」にするのか？「寄付＝NPO」にするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきました。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

メニュー寄付 税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます（確定申告が必要）。



出会い寄付
5,000 円 / 1 口（返金額は 1,200 円）



社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1 口（返金額は 19,200 円）



つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1 口（返金額は 3,200 円）



市民信頼社会寄付
100,000 円 / 1 口（返金額は 39,200 円）



実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1 口（返金額は 7,200 円）

- **任意額寄付** 事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- **マンスリー寄付** 月額 1,000 円 × 1 口 ~ (HP から受け付けています)
- **法人寄付** 損金算入限度額の枠が拡大されます。

* 雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニューズレター、年次報告書（年 1 回）をお送りします。

遺贈・相続財産の寄付 寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定NPOになって8年で、18人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています（2020年8月末現在）。

* 遺贈、相続財産の寄付をお考えの時には、お気軽に電話（06-6345-1517）か E メール（info@bigissue.or.jp）でご連絡ください。当基金の顧問弁護士へのご相談（無料）も可能です。

市民応援会員 特典があります（税制優遇はありません）。



にっこり応援会員

年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）

【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」最新号にお名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）ほか



ひとり立ち応援会員

年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）

【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」に 1 年間お名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）、パーティに
ペアでご招待（年 1 回）ほか

企業・団体「社会再生サポーター」 特典があります（税制優遇はありません）。

● キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円 ● 社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円 ● 社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円

* 『ビッグイシュー日本版』1 冊を 1 年分 24 回送付、雑誌に 1 年間お名前掲載などの特典があります（年会費に誌代相当分を含みます）。

<振込み> 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。
<クレジットカード> ビッグイシュー基金のホームページ（<https://bigissue.or.jp/>）からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所（06-6345-1517）までお問い合わせ下さい。

※ 個人の方のご寄付の領収書は 1 月～12 月入金分をまとめて翌年 1 月下旬に発行・送付させていただきます。
（これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の 4 割弱が返金されます）

誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる

——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、という 3 つの柱の活動を通じて、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組めます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやカネではなく「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方をもっています。「自助型の応援」を基本に多くの NPO、企業や行政・政府とも協力しホームレスの人々の自立・自活の応援を進めています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かさがある」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の 3 つの基本応援プログラムに加え、ホームレス状態にある人が望めば、サッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。生きる喜びや誇り、元気を回復し、当事者として、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要

- 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
- 設 立 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得
- 所 在 地 [事務局] 〒530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
HP : <https://bigissue.or.jp/> E-mail : info@bigissue.or.jp
[東京事務所] 〒162-0811 東京都新宿区水道町 4-28 JC 江戸川橋ビル 2 階
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
- 役 員 共同代表 米本 昌平（東京大学客員教授）
稲葉 剛（立教大学大学院客員教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
枝元 なほみ（料理研究家）
- 理 事 佐野 章二（有限会社ビッグイシュー日本共同代表）
高野 太一（ビッグイシュー基金事務局長）
中川 康生（ビッグイシュー基金法務担当責任者）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ / 世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長）
- 監 事 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士）
- 相談役 雨宮 処凛（作家）
- スタッフ 高野 太一 栗原 奈津子 川上 翔 木津 英昭 栗原 侑子 佐野 ハナ 小野 阿津美

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助と自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらう仕事をつくり、その売り上げの 50%以上を収入にしてもらうという仕組みをもっています。03 年 9 月から 20 年 8 月までの 17 年間で 1941 人が販売者に登録し、205 人が仕事を得て自立しました。また、累計 892 万冊を販売、13 億 7002 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



2020 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒 530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒 162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC 江戸川橋ビル2階

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : info@bigissue.or.jp

URL : <https://bigissue.or.jp/>

デザイン : 株式会社くとうてん

